

●平成26年度／小松高校上級学校合格者数

学校名	現 浪		学校名	現 浪		
	現	浪		現	浪	
北海道大	13	2	名古屋大	1		
東北大	3	1	奈良女子大	3		
東京大	5		広島大	1		
東京工業大	1		大阪府立大		1	
一橋大	1		その他	30	8	
名古屋大	8		国公立大学の合計	192	24	
京都大	3	2	青山学院大	5	2	
大阪大	8	1	慶應大	3		
神戸大	9		上智大	2	1	
九州大	1		中央大	6		
国公立大学医学部	1		東京理大	3	1	
10大学+医学部の合計	53	6	法政大	7	1	
国公立大学	筑波大	3	私立大学	明治大	11	5
	東京外国語大	1	立教大	4	2	
	横浜国立大	2	早稲田大	6		
	上越教育大	1	同志社大	19	5	
	新潟大	8	立命館大	62	16	
	富山大	18	関西大	24	8	
	金沢大	49	関西学院大	5		
	福井大	16	その他	222	36	
	信州大	6	私立大学の合計	379	77	
	静岡大	1				

●普通科7クラスと理数科1クラスの現役生及び浪人生の合格実績。なお、10大学の合格者は、22年度から73→66→73→62→58名、東大は、5→3→2→8→5名という推移だった。

「可能性があるから志を高く持とう、という単純な言葉は、実はかなり重い。指導の通りにやっただけの結果が出ないとなつては簡単に許されるはずがないからだ。では、確実な結果に結び付け指導ができるのか。英語を担当する片岡清志先生は言う。「我々は、生徒の可能性の判断を極めて慎重に行っています。特に重視しているのは生徒の答案です。何をどう答えているか、どこをどう間違えているかを採点・添削しながら注意深く見定

生徒の実力と可能性を答案の添削で判断

この授業について、物理を担当する村上真一先生は、「東大ではこんな出題をする、この問題なら場合によっては白紙でも大丈夫、といった話は生徒には新鮮で、自信をつけたり、意欲的になったりするようです。目の輝きが違ってくるのがわかりますね」と話す。

この緊張の緩和までさまざまな場面でのよい効果を生むのです」（土山先生）



●進路指導主事 数学科 土山樹一郎先生

め、例えば模試などの得点や偏差値では見えないその生徒個々の到達度、理解度、処理能力などをチェックしているのです。ですから、1年生の定期試験問題から東大クラブの演習問題まで、すべてのテストに到達度や理解度を測るための問題を仕組んでいます。生徒のパーソナリティから成長の度合いまで細かく把握、これから発揮されるだろう潜在的な学力まで医師のカルテのように診断して進路指導を行っているのです」

小松高校のカリキュラムは、正規の授業の密度も濃いですが、補習授業もかなりのウェイトがあるという。東大クラブのように個々の志望や学力段階を踏まえ、それに合わせた授業・トレーニングをするには、正規授業の合間に開かれる補習授業が欠かせ

●進路指導部訪問

地方公立大志望から難関国立大へ進ませる
進路指導改革プランの中身と課題

——石川県立小松高等学校の進路指導

県内トップクラスの高校でも、浪人を嫌い難関大より地元国立大や都会の有名私立大へ進む「堅実な選択」をする人は少なくない。しかし、それが本当にベストな選択だろうか。そう考えて進路指導改革に乗り出したのが石川県立小松高等学校の土山樹一郎先生だ。その改革の中身と現状を聞いた。

最初の進路選択は「総合大学、WASENJI」

石川県小松市にある県立小松高等学校は、百余年の伝統を持つ県内トップクラスの進学校だ。石川県高校総体・総文や甲子園、春高バレーでも名を連ねるなど部活動も盛んなほか、スパー・サイエンス・ハイスクールにも指定され、文武両道・先鋭的な教育内容として地元にも広く知られている。

「そんな学校ですから、それなりに学力が高い、潜在能力を持つ生徒たちが集まっています。しかし、入学した当初の彼らに進路先の希望を尋ねると、私から見れば控えめな進学先を答える生徒が多かったです。保護者の方も安全志向が強く、浪人を避け私立大の併願を考えると、現状でした。しかし、努力次第では難関国立大に手が届く力がある。その可能性を生かさないのもいいのかという思いがありました」と進路指導主任の土山樹一郎先生は話す。

「まず、私は校内の『東大もしくは京大』という風潮を改めようと思いました。目標は最難関1校であるべきです。現在の東大はより総合力と人間力が求められる大学。そこにこだわりたいと思ったのです」

総合力と人間力を重視する東大へのこだわりは、土山先生の進路選択のベースでもある。一般的に高校生は、まず将来の職

に赴任した直後から指導体制の改革を図ることにしたという。「たとえ浪人しても、それを補って余りある未来が見えてくる。生徒もそこに気づけば、どんなに変わっていくこともわかっている。だから今一度考えてみませんか、という強い思いがあったのです」

小松高校では、土山先生が赴任する前から、10人に満たなかった東大と京大の合格者を15人に増やすことを目標に「小松メソッド」と名付けた計画を推進していた。全教職員の意識として放任的な学習・進路指導からの脱皮を図ろうという流れがあったのだ。

東大志望者が集まる場「東大クラブ」

そうした説明をする中で、東大受験の勉強を効率的にやりた



●理科
村上真一先生



●英語科
片岡清志先生



●国語科
田丸昌広先生

結んでいます。ただそれだけなのですが、生徒にしてみれば新しい選択肢・目標に出会うことになるため、意欲を高めることに結び付いているようです」

クラスや学年がより多く上を向くことで、全体の雰囲気も活気づく。それが生徒の学力アップ

もう一つの課題は、教科間の連携です。我々がやるべきことは、各教科それぞれに最高レベルで理解させることであること

それが伝わってしまうのか、生徒の集中力も薄まっているようにも見えます。これは常に戒めべきことではないでしょうか。

「一つは、我々の方法が形骸化する事です。ある年、ある方法を成功したとすると、それを翌年も同じようにやっています。しかし、実際は生徒それぞれの個性も置かれている状況も違うので、常に『今』の状況に合わせてのアレンジが必要です。そして何より、前回の安易な踏襲は、教師の側の緊張感が薄れ、それが伝わってしまうのか、生徒の集中力も薄まっているようにも見えます。これは常に戒めべきことではないでしょうか。」

生徒個々に向け丁寧に行われる指導、それに助けられて自発的に奮闘している生徒という状態は、今のところ成功しているように見えるが、課題として挙げるべき点はないのだろうか。それには片岡先生が答える。

「一つは、我々の方法が形骸化する事です。ある年、ある方法を成功したとすると、それを翌年も同じようにやっています。しかし、実際は生徒それぞれの個性も置かれている状況も違うので、常に『今』の状況に合わせてのアレンジが必要です。そして何より、前回の安易な踏襲は、教師の側の緊張感が薄れ、それが伝わってしまうのか、生徒の集中力も薄まっているようにも見えます。これは常に戒めべきことではないでしょうか。」

教科間の深い連携は常に模索すべき課題

は間違いないかもしれませんが、それが入試対策の段階であれば、より総合点が高いものに仕上げなければなりません。例えば新課程になり理科の学習や進度が難しくなっているとすれば、それは受験対策として理科に重点を置かなければならないということであり、国語や英語などの課題は控えめにし、その分理科の学習を深めるといような配慮、教科間の連携が必要です。

本校では、それぞれの教科の先生とのコミュニケーションが密で、総合的に個々の生徒をみる事ができているという自負は、それなりにあるのですが、それでもその教科間のバランスと、何をどれだけやるべきかという問題は、依然として大きな問題です。生徒本人の希望や志向もないがしろにできませんし、それぞれの教科の先生が教科内で考える計算もあるはずで、さまざまな制約や条件がある中で、何を生徒に渡して、何を頭に入れてもらうか、生徒の現状と課題を見極め「教科主義」に陥ることなく教師がチームに

「生徒が成功すれば共に喜び合う。仮に失敗したなら、教員はその責任を深く感じ、その後も生徒の将来に向けて真剣な指導を続ける。失敗した生徒からも、図らずも多くの感謝の言葉をもらうのですが、そうした生徒との一体感、共通理解があるという事。これを、いわば『チーム小松』のやり方として大切にしていきたいと考えています」

受験生は希望の大学、それよりも高い目標に向けて、日々緊張感や焦燥感と戦いつつ、時に達成感や向上の喜びをかみしめながら全力で走っている。彼らを身近で指導する先生も、全く等量の緊張感や焦燥感、達成感を抱きながら並走しているという事かもしれない。一人の先生が先頭を切って改革を訴え、それに他の多くの先生が賛同して連携を強めていく。その熱意は、ごく自然に生徒たちに浸透しているのだろう。

●小松高校の年間スケジュール「進路実現を目指して」

踏ん張り・やりくりの12か月（2年生6月～3年生5月） ※1年生、3年生のスケジュールは省略

	2年生/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3年生/4月	5月
主な行事	総体・総文大会/北信越大会/修学旅行/進路講演会	終業式/夏季休業/特別学習会	大学見学会/インターシップ/オンパス/韓国科学交流/夏期補講/特別学習会	新人大大会(前期)/関東ジュニア/第2回進路志望調査	進路講演会/進路検討会	新人大大会(後期)	海外交流研修/韓国科学交流/終業式/冬季休業/スキーバーゼミ	始業式/センター試験/3年0学期結団式	進路講演会/進路志望調査/「第一志望届」/「(大前期試験)」	卒業式/1/2年合同進路講話/春休業/スプリングセミナー/「(大後期試験)」	始業式/入試式/進路志望調査	進路検討会①
重点テーマ	文武両道再確認! 苦手科目を把握し、克服しよう	「何を学びたいのか?」 学部・学科を考えよう	入試に向けて、意識を高めよう	高校生活の折り返し地点=受験勉強をスタートさせよう	3年「0学期」! 進路目標に向けて、自律的な学習をしよう			いよいよ受験生! 部活動との両立を!				
日々の学習と進路ポイント	国・数・英の基礎固め ・苦手科目には毎日触れる ・英語は毎日聞く ・シス単こぶ単は毎日10分 ☆平日3h 休日5h	各種試験再見直し→弱点補強 ・弱点補強オリジナル課題を自分に課す ・文系の地歴、理系の理科において、1科目は得意に ☆平日5h以上	国・数・英+a開始 ・入試を意識し、ハイレベルな問題にも取り組む 理・地歴本格的に開始 ・授業→復習を徹底して基礎を叩き込む ☆平日3h、休日5h	志望校の問題を解く ・過去問1年分を解く ↓ ・自分に必要な学習を知る ↓ ・3年0学期からの学習計画を立てる ☆平日3~4h 休日5~6h	この時期の学習姿勢が3年夏以降からの飛躍に大きくかわる。既習内容(=センター試験範囲)の総復習 ・完全に弱点をなくしてしまおう ・習得・定着型から探求型重視への移行 難関志望者=ハイレベル模試を通じて応用力への対応確認 金沢大学レベル志望者=初のマーク模試で5教科の逆転を分析 ☆平日3~4h 休日5~6h。休業中毎日6h以上			メリハリある学習サイクル ★予習必須(入試問題演習が増大)→授業→復習 ・最後の総体までのやりくりが大切 ・継続する「人間力」を鍛える ☆平日3~4h 休日5~6h				
定期試験		期末考査		中間考査		期末考査		学年末考査		中間考査		
模試	第1回校内模試(国数英)	進研模試(国数英)	学研ハイレベル模試(国数英)	第2回校内学力テスト(5教科)	進研模試(5教科)			第3回校内学力テスト(5教科) 数高2東大レベル模試(国数英) 進研センター早期対策マーク模試	第2回校内模試(5教科) 数高2東大レベル模試(国数英) 進研センター早期対策マーク模試		第1回校内模試 進研模試4月模試	学研記述模試
模試の意義	大事なテスト! 長期計画作成の材料にする	全国での自分のレベルを知る	1年半後、ライバルとなる相手の実力、その中における自分の力を知る	夏休みに弱点を補強できたかどうかを確認する	初めての5教科全国模試! 全国内での自分の総力を知る			3年0学期に向けて真面目に課題に取り組みたい。センター試験を知りたい。自分の総力を知る	これまでの記述力を確認入試レベルを体験。センター試験を知る		現在の真の実力を客観的に把握「5教科記述力」到達度確認	全国内での記述レベルを知る。

●学習計画のほか、学校行事や部活との両立まで設定されている小松高校の3年間の進路スケジュールモデル。各月に実施される模試の意義やさまざまな制約を考慮した上で、本学習計画、受験教科全体をまんべんなく見渡して計画が練られている点に小松高校ならではの配慮がうかがえる。

進路指導室は常に活気に満ち溢れている

とはいえ、学力の把握だけでは完璧ではない。例えばこんなことがあったと土山先生は話す。「マーク模試で目標とする得点まで至らなかった生徒が、何とかセンター試験本番をクリアしました。その生徒は、それで油断してしまつたのでしよう。2次試験の準備が疎かになって、結果は失敗してしまつたのです」

そうした事例をへて、今は全ての生徒とのコミュニケーションを密に、きめ細かく面談を行っているという。これには国語を担当する田丸昌広先生が話す。

「生徒は積極的に先生を訪ねてくるので、休み時間や放課後の進路指導室は活気に満ちあふれています。また、こちらから生徒と個別に連絡したいと思つたときは、あの生徒なら今、ここにいるはずだと居場所がわかる、というように、生徒とのコミュニケーションはかなり良好です。面と向かって話をすると、保護者にもしゃべっていない本音がでてきたりするので、それを踏まえて急きよ進路指導の方向針が変わつたといったことも、わが校では多いようです」

進路指導のアドバイザーという点では、石川県という地域性から、志望校として、国立大では、名古屋大、大阪大、神戸大などが上がり、それらに次ぐ大学としては金沢大を選ぶ生徒が多いという。土山先生からは、そこにアドバイスを加える。

「石川県の生徒の目が向かない、例えば東大などと同じように入学してから所属学部を決定できる北大の総合入試枠、あるいは先進的な研究・教育をしている東北大なども折に触れ推薦